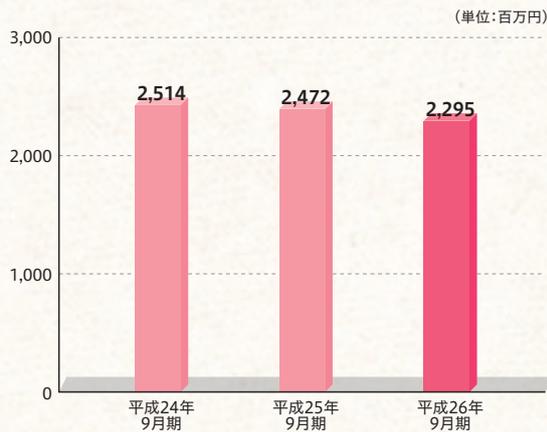


# 業績ハイライト(単体)

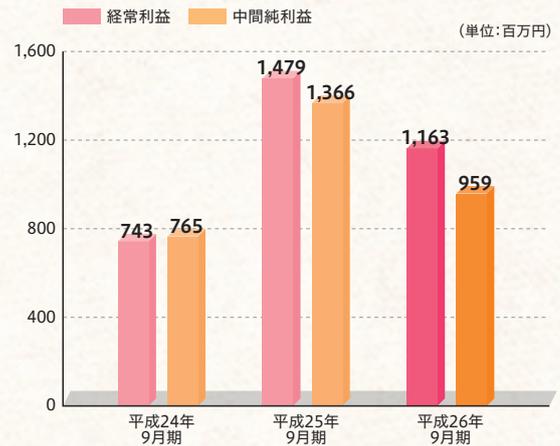
## コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、経費削減に努めたことで物件費は減少したものの、資金利益の減少や税金の増加などにより、前年同期比1億76百万円減少の22億95百万円(増減率△7.1%)となりました。



## 経常利益・中間純利益の状況

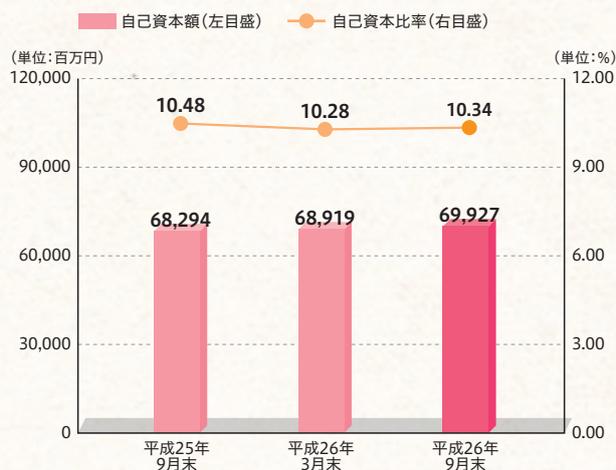
経常利益は前年同期比3億15百万円減少の11億63百万円、中間純利益は前年同期比4億7百万円減少の9億59百万円となりました。



## 自己資本比率の状況

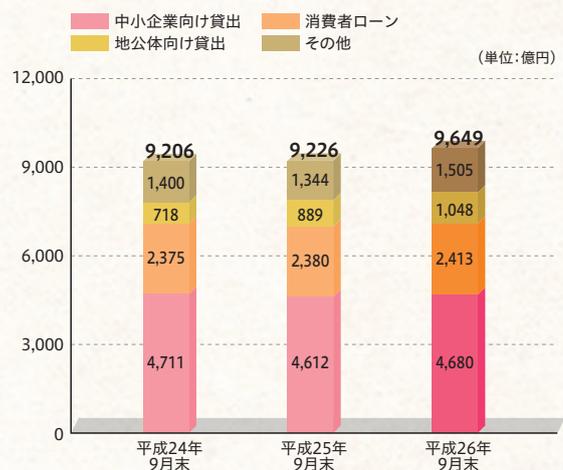
単体自己資本比率は、10.34%となりました。

※平成26年3月末より、改正後の自己資本比率規制(バーゼルⅢ)が国内基準行に適用されたことにより、従来の自己資本比率との算出方法が異なっております。



## 貸出金の状況

貸出金残高は、中小企業向け貸出、住宅ローン貸出を中心とした消費者ローンや地方公共団体向け貸出が増加したことなどから、平成25年9月末比422億24百万円増加の9,649億13百万円となりました。

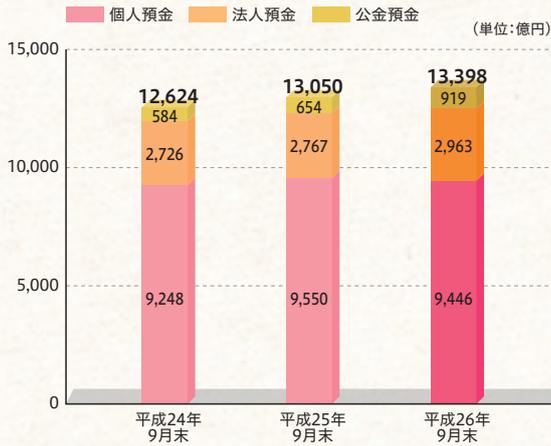


### 用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

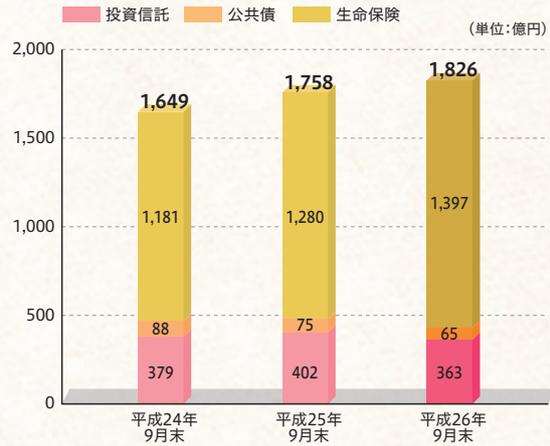
## 預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、個人預金が減少したものの、法人預金及び公金預金が増加したことから、平成25年9月末比347億95百万円増加の1兆3,398億3百万円となりました。



## 預かり資産の状況

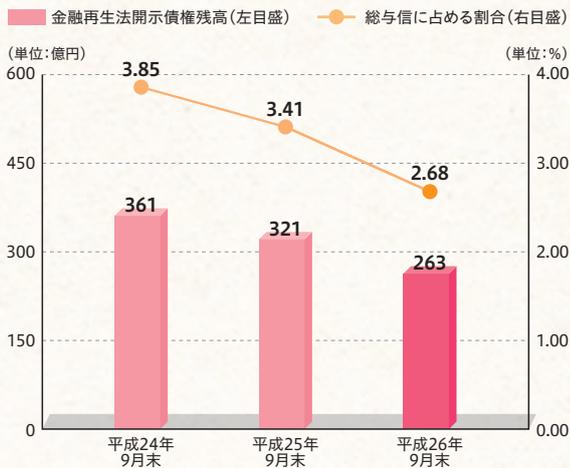
預かり資産残高は、安定志向にあるお客さまニーズの取込みなどにより生命保険残高が増加したことなどから、平成25年9月末比67億円86百万円増加の1,826億74百万円となりました。



## 金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成25年9月末比58億5百万円減少の263億72百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成25年9月末比0.73ポイント低下の2.68%となりました。

### 金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



当行は、平成23年2月、取引先企業再生支援のためのコンサルティング機能の発揮及び強化を目指し、完全子会社となるきらやかターンアラウンド・パートナーズ株式会社を設立、平成24年5月、当行が所管する貸出債権125億59百万円を会社分割により承継いたしました。

平成26年9月末現在における同社との連結開示債権残高は、266億94百万円で、開示債権比率は2.71%となります。

なお、同社は、平成24年3月、日本政策投資銀行と資本及び業務提携に関する協定書を締結し、企業再生支援機能を強化するとともに人材の育成を図ることによって地域経済の活性化を目指しております。

- 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
- 中間純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。